

小型・高回転な遠心機

久保田商事と共同ブランド

創 晶

創晶（大阪府吹田市、安達宏昭社長、06・6877・5659）は、久保田商事（東京都文京区）とiPS細胞（万能細胞）やたんぱく質の培養などで使う、冷却が可能な卓上型の遠心機を開発した。創晶が2014年12月末までの間、遠心機を手掛ける久保田商事とのダブルネーム製品として独占的に販売できる権利を得た。価格も約50万円の低価格帯を実現し、大学や研究機関が求めやすい設定にした。12月3日から神戸市内で開かれる日本分子生物学会の会場で展示する。

開発した遠心機は「2ら本格販売を始め、製薬800S」。価格は52万円。会社や大学、研究機関向けに年間100台の販売2900円。14年1月か



を計画している。たんぱく質や遺伝子解析などの試料調整の際、遠心力を

回転と2000Gという高い遠心力を実現した。細胞などは37度C以上

小型で低価格な遠心機を開発（プレート専用冷却遠心機「2800S」）

▲.....
 用いて試料を密度の差で分離する遠心機は欠かせない。創晶はプレート用のローターを固定することで1分当たり4300回転と2000Gという高い遠心力を実現した。細胞などは37度C以上になると死滅する。このため冷却が必要だが、開発製品は約9度C程度まで保持できるという。従来は「小型、高回転、冷却、低価格」を備えた遠心機はなかった。創晶は05年設立の大阪大学発ベンチャーで、遺伝子組み換えたんぱく質の結晶化などに強みを持つ。ただ、遠心機製造での実績はないため、久保田商事との共同ブランドで販売できるメリットは大きいとみている。14年12月末までの期間

は、すべて創晶から販売できるため、他ルートで受注が来ても創晶から代理店経由での販売が可能。久保田商事が持つ独自販売網を使う販売もできるうえに、その場合で

も創晶を通して販売する形になる。創晶は一定期間、独占販売で利益が得られるため、今後の医療機器市場での存在感向上につなげることを狙う。